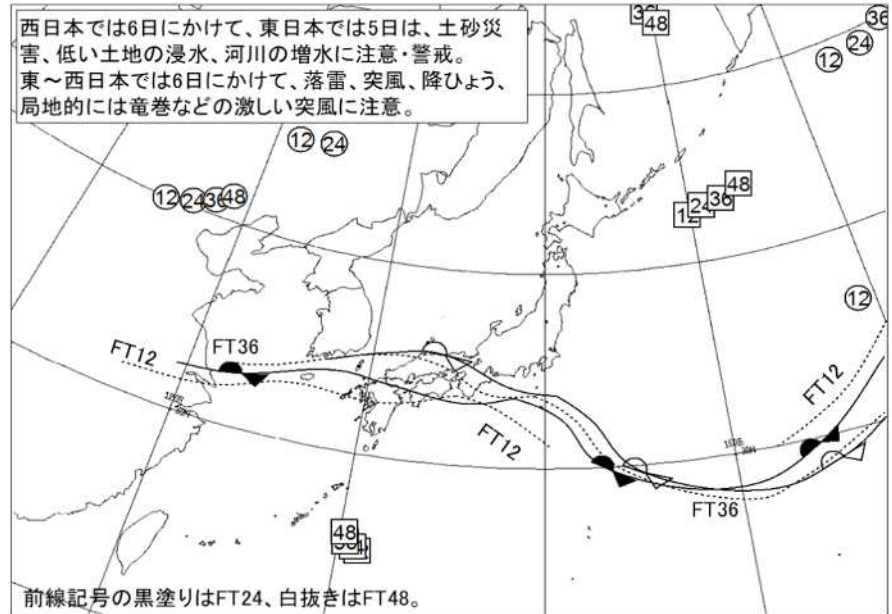


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m付近の強風軸に対応する前線が、対馬近海～西日本～日本の南に停滞している。日本海西部には上空の浅いトラフがあって東進。前線に向かって下層暖湿気が流入し、09時の福岡の高層観測では850hPa 350Kを観測。この付近に前線上のキंकを解析。西日本では、激しい雨を解析。雷やメソサイクロンを検出。
- ② 太平洋高気圧が、日本の南でほとんど停滞している。
- ③ 高気圧が、千島近海をゆっくり南東へ移動している。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、6日にかけて西日本や伊豆諸島付近にほとんど停滞する。また、1項①の前線上のキंकは、5日夜にかけて西日本から伊豆諸島付近に進む。前線に向かう850hPaで相当温位350K以上の下層暖湿気が、1項②の高気圧の縁を大きく回るように、大陸～東シナ海を通過して西日本を中心に流れ込む。このため、大気の状態が非常に不安定となって、激しい雨が降って大雨となる所がある。これまでの大雨で地盤の緩んでいる所では、普段より少ない雨でも土砂災害の危険度が高まりやすいことにも留意。西日本では6日にかけて、東日本では5日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。西～東日本では6日にかけて落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 1項③の高気圧は、6日にかけて日本のはるか東に移動する。北～東日本では、次第に高気圧後面の南よりの風場となり、下層暖湿気が北上する。また、5日～6日は、500hPaで-6℃以下の寒気が流れ込む。これらの影響に日中の気温上昇の影響が加わり、大気の状態が不安定となる所がある。東日本では4日と6日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。2項

- ①の前線や前線上のキंकの位置は不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量 (18時からの24時間) : 九州北部100mm。
- ② 波浪 (明日まで) : 高い所 (3m 以上) はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。